

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		アイリー西宮		公表日		R8年2月27日	
		チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。		○	
2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。		○		基準に基づいた職員配置を行い、児童の状態や活動内容に応じた支援体制を整えている。	安全かつ質の高い支援を継続できるよう、適切な配置体制の維持に努める。	
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		○		絵カードや写真、タイムスケジュールの提示等により視覚的に分かりやすい環境づくりを行っている。	児童の特性に応じた環境調整を継続し、より理解しやすい空間づくりを進める。	
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。		○		日々の清掃や玩具の点検を実施し、清潔で安全な環境維持に努めている。	引き続き安心して過ごせる環境づくりを継続する。	
5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		○		必要に応じてクールダウンや個別活動のためのスペースを提供している。	児童の状態に応じた柔軟な環境提供を継続して行う。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。		○		朝礼等を通じて情報共有や支援の振り返りを行い、業務改善に取り組んでいる。	今後も職員間の連携を強化し、継続的な支援改善に努める。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		○		保護者向け評価やアンケートを通じて意向を把握し、支援の見直しに活用している。	引き続き保護者の意見を丁寧に把握し、運営改善に活かしていく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		○		職員間の情報共有を行い、意見交換を通じて支援の向上を図っている。	意見共有の機会を継続的に確保し、より良い支援体制づくりを進める。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。			○	同法人内での情報共有や人材交流を通じて支援の質向上に努めている。	外部評価の活用については必要に応じて検討していく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。		○		外部研修への参加や資料共有により、職員の知識向上を図っている。	引き続き研修参加を推進し、専門性向上に努める。
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。		○		支援プログラムをホームページにて公表している。	継続して情報公開を行い、発信方法の充実を検討する。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。		○		アセスメントを行い、ニーズを踏まえた支援計画作成を実施している。	計画内容の明確化と定期的な見直しを継続する。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。		○		関係職員で情報共有を行い、共通理解のもと計画内容を検討している。	チームでの検討体制を継続する。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。		○		支援計画の共有を行い、計画に基づいた支援を実施している。	共有体制を維持し、支援の質向上を図る。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。		○		記録や行動観察を通じて状況把握と評価を行っている。	記録の活用を継続し支援改善につなげる。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。		○		こどもの成長過程や特性を踏まえた支援項目を設定し、送迎時の相談や家庭での困りごとにも反映しながら具体的な支援内容を作成している。	家族支援の視点がより明確に伝わるよう、計画書への記載方法の整理と充実を図る。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。		○		朝礼等を通じて職員間で意見交換を行い、活動プログラムの検討を行っている。	チーム全体での検討機会を継続的に確保し、活動立案体制の充実を図る。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。		○		長期休暇や土曜日を中心に、季節行事や制作活動、外出活動等を取り入れ、こどもの意見も反映した活動プログラムを実施している。	今後も保護者アンケート等を活用し、活動内容の充実と多様化に努める。

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		児童の意見を取り入れながら活動内容を検討している。	支援計画の共有を通じて継続的に適切な支援提供に努める。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		朝礼にて支援内容や役割分担を確認し、チームで連携した支援を実施している。	引き続き打合せを通じた共通理解の徹底を図る。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		支援後や翌日の朝礼等で振り返りを行い、情報共有ツールも活用して共有している。	職員間の情報共有体制を維持し、支援改善につなげていく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		日々の支援記録を作成し、個別のデータ管理を行いながら支援の見直しに活用している。	記録の質向上を図り、検証・改善への活用をさらに強化する。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		支援状況を確認しながら必要に応じて計画の見直し検討を行っている。	定期的なモニタリング体制の充実を図り、より適切な計画見直しにつなげていく。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		ガイドラインに示される4つの基本活動を組み合わせた支援を行っている。	地域交流の機会については、今後活動内容の検討を行い、機会の充実を図る。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		おやつや創作活動等の場面において、時間をかけながら児童自身が選択できるよう支援し、自己決定の機会を設けている。	引き続き自己選択の機会を大切にし、自己決定力の育成につながる支援を行う。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		支援会議に参加し、保護者や関係機関との情報共有を行っている。	今後も児童の状況を理解した職員が会議へ参画し、連携の継続に努める。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		学校や相談支援専門員等と連携し、支援体制の構築に努めている。	引き続き関係機関との情報共有を行い、連携体制の強化を図る。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		学校との情報共有や連絡調整について、記録を残しながら保護者への迅速な伝達を行っている。	連絡事項の漏れ防止に努め、継続して適切な連携を図る。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		支援会議等を通じて関係機関との情報共有を行い、相互理解を図っている。	引き続き円滑な連携と情報共有に努める。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		移行時には支援会議等を通じて支援内容の情報共有を行っている。	今後も円滑な移行支援につながる情報提供に努める。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		必要に応じて専門的助言を得られる体制づくりについて検討している。	児童発達支援センターとの連携体制構築に向けて検討を進める。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		地域の公園活動等を通じて地域児童と関わる機会が生じる場面がある。	交流機会の充実に向け、地域との関わり方を検討していく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		地域連携に関する情報収集を行っている。	自立支援協議会等への参加について体制を検討し、参画機会の確保を図る。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		日々の様子について情報共有ツールや送迎時の対話を通じて保護者へ伝達している。	継続して発達状況や課題について共通理解を深められる関係構築に努める。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		面談等を通じて保護者との意見交換を行い支援に活かしている。	家族支援につながる研修や情報提供の機会について検討する。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時や面談時に運営規程や利用負担等の説明を行っている。	今後も分かりやすく丁寧な説明に努める。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		懇談等を通じて児童および保護者の意向を確認し、最善の利益を考慮した計画作成を行っている。	引き続き意向確認の機会を確保し、適切な計画作成に努める。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		面談等において計画内容の説明を行い同意を得ている。	保護者の状況に応じた柔軟な説明機会を継続して確保する。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		面談や電話等により相談対応を行い、助言や支援につなげている。	相談しやすい関係性づくりを継続し、支援機会の充実を図る。

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	○		家族参加型イベントを開催し、交流機会の提供に努めている。	今後も交流機会の継続と内容充実を図る。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		相談や苦情に対応できる体制を整備し、迅速かつ適切な対応に努めている。	引き続き適切な対応体制の維持と周知に努める。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		情報共有ツール等を活用し、日々の様子や連絡事項の発信を行っている。	継続して分かりやすい情報発信に努める。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報は適切に管理し、書類は施錠保管を行い同意取得を実施している。	引き続き個人情報保護の徹底に努める。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		児童の特性に応じたコミュニケーション方法を活用し、保護者とも利用しやすい手段で情報共有を行っている。	意思疎通しやすい環境づくりを継続して行う。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		地域交流のあり方について検討を行っている。	地域に開かれた事業運営に向けた取組内容を今後検討する。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各種対応マニュアルを整備し職員間で共有している。	保護者への周知方法について整理し、情報提供の充実を図る。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		BCPを策定し、定期的に避難訓練等を実施している。	継続して内容確認と訓練実施を行う。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○		契約時の聞き取りにより健康状態の把握を行っている。	継続して丁寧な情報確認に努める。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		アレルギー情報の確認を行い対応に配慮している。	継続して安全な対応体制の維持に努める。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画に基づき研修・訓練を実施している。	定期的な見直しにより安全管理の向上を図る。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		契約時に安全確保に関する取組の説明を行っている。	継続的な周知方法について整理し、情報共有の充実を図る。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハット事例の共有を行い再発防止策を検討している。	継続して共有体制の維持と改善検討を行う。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		研修や意見共有を通じ虐待防止への理解向上に努めている。	研修機会の継続的確保に努める。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		身体拘束に関する基本方針を職員間で共有し、適切な理解に努めている。	該当事例が生じた場合は法令・指針に基づき組織的に検討し、保護者説明・同意取得および計画への記載を行う体制を整える。	